

平成26年度 事業報告書

ハーバー大慈

1. 《平成26年度法人ヴィジョン》

- ①経営の強化
- ②サービスの質の向上
- ③教育システムの充実

2. 《施設理念》

児童福祉法の理念及び法人の設立精神である「和顔愛護・上敬下愛」に基づき、利用者の人権を尊重し、地域から信頼される施設を目指す。

3. 《基本方針》

- ①利用者の最善の利益を目的とし、利用者主体の福祉サービスを提供する。
- ②母と子の権利擁護の為に、職員一人ひとりの倫理観、人間性を養い、母と子が安心して生活出来る場を提供する。

4. 《ハーバー大慈における中長期ヴィジョン》

- ①入所者が金銭的、精神的、社会的に自立出来る様、自立に繋がる支援をする。
また、全職員が、そのヴィジョンに対し、共通の意識を持ち、業務を遂行する。
- ②内部組織の強化。
- ③地域の福祉ニーズを模索し、把握する。

5. 《目標》

- ①各入所者の自立へのプロセスを明確にし、ニーズに沿った支援をする。
 - A) 入所時、入所後にケースワークを行い、母子と相談した上で、自立に向けた目標やプランを設定する。
 - B) 入所者の精神の安定を図る為に、必要に応じてケースワークの回数を増やす。
 - C) 金銭管理が必要な場合、金銭の預かりを行う。
 - D) 退所後、必要に応じて他機関との関係調整等、アフターケアを行う。
 - E) 児童にとって、より良い養育の為に支援を行う。
 - ・小、中学生の学力向上の為に勉強会。
 - ・母親への経済的自立への支援（子どもの病時保育等）。

今年度は入退所が多く、幼児の世帯が増え、子育てについての悩みや相談を受けることが多かった。場合によっては、職員が介入する場面も何度かあった。今後も母子の様子に気を配り、様子の変化に気付き、対応できるようにしていきたい。昨年度に引き続き、自立に向けた金銭の預かり支援や資格取得時の子どもの預かり支援を行った。ただ、入所者の中には“早く貯蓄したい”という思いから、残業や日祝日の預かり保育の回数が多く頼まれることがあった為、特に幼児の世帯には、幼児期の子どもとの関わりを大切にしてもらおうように話をし、月ごとの利用回数や時間を決めた。来年度も引き続き、自立へのプロセスの明確化と、入所者一人ひとりに子どもとの関わる時間を大切に持ってもらえるよう、話をしていきたい。今年度、アフターケアを行った件数は3件で、内2件は金銭管理や病院等の付き添い、自宅訪問等も行った。来年度も継続して行っていきたい。

②職員の資質の向上。

- A) 各職員が、自分自身の資質を理解し、資質向上に必要な研修に積極的に参加する。
- B) 各職員がマニュアルに縛られず、自ら考え、行動出来る様に、会議等を通し、価値観の共有化を図る。

職員の資質向上を図る為に、昨年度に引き続き、月1回、全職員を対象に講師を招き、コーチング（心理）研修を施設内で行った。研修内容が一巡した為、年度の途中より、より実践で活用できる技術を身に付けられるよう、講師との一対一でのコーチングも開始した。資質向上のためでもあり、自分自身の職場での悩みやプライベートでの悩み等を講師に聴いてもらうことができ、職員からは「実践的なスキルとして活用できる」等の声が挙がった。またコーチングを通して、「自分自身が入所者の立場になって考えられるようになった。」等の声も挙がった。今後もより質の高い支援が行える様、資質向上に努めていきたい。

③リフレッシュ保育事業を通して、子育て支援を行う。

- A) 祝日の利用者が多いので、必要に応じて祝日の職員の出勤人数を増やし、受け入れの枠を広げる。
- B) リフレッシュ保育事業の広報活動。（広告の配布やインターネットへの掲載）

今年度も引き続き、祝日の職員の出勤人数を2名にし、受け入れ枠を広げた。地域での子育て支援という機能が果たせる様に、地域のニーズに応え、対応できる体制作りをし、可能な範囲で地域貢献できるように努めていきたい。
 ※祝日のリフレッシュ保育利用者数については、“12.《リフレッシュ保育》”を参照。

<入居者の異動利用状況>

区分		月別												計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
初日在籍数		20	20	20	20	20	19	20	20	20	19	19	20	237
		46	46	46	46	45	43	45	45	45	43	43	45	538
入所	夫の酒乱暴行													
	住宅喪失													
	その他		1				1					1		3
			2				2					2		6
退所	公営住宅入居													
	民間住宅入居		1							1				2
			2							2				4
	復縁再婚					1								1
						2								2
その他				1									1	
短期保	母子	1	1			1	1						4	
		2	2			2	2						8	
	婦人													

(数字の上段は世帯数、下段は人数)

母子婦人短期保護の母子家庭は、2世帯4名 婦人は0名 延人員4名だった。

6. <<健康診断>>

種類	職員	母親	児童
一般健康診断	年2回	年2回	年2回
検便（O-157）	月1回	—	—

7. <<保健衛生>>

害虫駆除を行った。（各居室・短期保護室・事務所・集会室・宿直室）
業者に依頼し、各居室のエアコン清掃と排水管清掃（台所、浴室、洗濯機置場）、施設内の廊下掃除を行った。

8. <<広報>>

毎月、施設新聞を利用者、関係機関に配布した。

9. <<行事内容>>

①幼児・児童エンジョイ（海遊館）

→昨年度、職員より幼児を対象とした行事も取り入れたい、との声があった為、今年度4歳以上小学2年生以下を対象に、海遊館へ行った。幼児とはコミュニケーションをとる機会が少ないため、今回一人ひとりの個性を深く知ることができ、職員としても良い機会となった。来年度も幼児を対象とした行事を考えていきたい。

②個別対応遊び（月1回）

→今年度も内容の充実を図り、施設外での活動を増やし、1泊2日のキャンプや芋掘り、陶芸等の“体験する”という内容を取り入れた。施設外での活動を通し、個別に対応が必要な児童とより密にコミュニケーションをとることができた。

③母親お菓子教室

→今年度、初めて試みた行事で、母親を対象とし、母親のリフレッシュの場であり、他の入所者と体験を通して交流の場となるよう、第一回目はお菓子教室（ロールケーキ作り）を開催し、講師を探し、ひとり親家庭支援センターのキッチンを借りて行った。参加した母親からは、「またこういう場を考えてほしい」という声があったので、来年度も母親教室を開催したい。

④母子生活支援施設協議会（新春母と子の集い）

→今年度は演目で、マスゲームをした。母親、児童に参加してもらい、平日の夜に練習を行った。入所者、職員が一つの目標に向かい、協力し合えたので、参加した母親より、“学生時代を思い出した”“子どもと同じ目標に向かって頑張れたので、良い経験になった”という声が挙がった。職員と入所者が力を合わせ、同じ目標に向かうことを通して、信頼関係を築いていきたい。

○月極・・・母の会・避難訓練

○年間行事

月	日	行事	月	日	行事
4	8	昼食会	9	1	昼食会
	19	昼食会		7	母子生活支援施設協議会 バス旅行（姫路セントラルパーク）
	26	個別対応遊び（アイロンビーズ）		13	昼食会
5	11	母子生活支援施設協議会 母と子の運動会（湊小学校）	10	20	焼肉パーティー
	17	昼食会		27	個別対応遊び（陶芸）
	24	個別対応遊び（キーホルダー作り・携帯ケースのデコレーション）		4	昼食会
	31	昼食会		11	母親お菓子教室（ロールケーキ作り）
6	1	親子エンジョイ（淡路島）	11	18	個別対応遊び（芋掘り）
	7	昼食会		19	アイススケート招待
	12	害虫駆除		25	昼食会
	21	昼食会 個別対応遊び（卓球）		26	OB会
	29	卓球大会		31	ハロウィンパーティー
	7	5		個別対応遊び（七夕 笹の飾り付け）	12
7		七夕（鮭寿司・豚汁）	15	昼食会	
18		昼食会	16	児童エンジョイ（ユニバーサルスタジオジャパン）	
23		昼食会	1	22	個別対応遊び（ファンルーム）
28		昼食会		29	昼食会 施設内忘年会
30～ 8/1	母子生活支援施設協議会 児童キャンプ（香住）	12	13	昼食会	
8	1		昼食会	20	施設内クリスマス会
	6・7	個別対応遊び（淡路キャンプ）	26	昼食会 個別対応遊び（茶話会）	
	8	昼食会	2	7	もちつき
	12	昼食会		17	昼食会
	19	昼食会		18	母子生活支援施設協議会 新春母と子の集い 新年会
	21	料理教室招待	3	31	個別対応遊び（吹きガラス作り）
23	地藏盆	3		節分（巻き寿司・豚汁） 個別対応遊び（巻き寿司作り）	
27	昼食会	7		昼食会	
30	個別対応遊び（水遊び）	21		昼食会	
8	3	ひな祭り（鮭寿司・豚汁）	3	6	母子生活支援施設協議会
	6	母子生活支援施設協議会		～8	児童スキー（ハチ高原）
	～8	児童スキー（ハチ高原）		23	昼食会
	23	昼食会		25	昼食会
	25	昼食会		個別対応遊び（ボーリング）	

10. 《学習指導》

対象者	頻度	内容
小学生	各児童週1～2回	国語・算数・英語（月に1度、4年生以上の児童） 個々の能力に沿って、担当職員がプリントを作成し、学校の宿題後に行った。（児童の能力に合わせて、必要な児童にはワークも購入した。）
	夏・冬・春の長期休みは、 毎日（月～金）1時間	国語・算数の宿題。終了している場合は、他の科目の宿題。
中学生	週1回	英語・数学 個々の能力に沿って、担当職員がプリントを作成した。 中3には受験前、個別に学習指導をした。
	テスト前は2日間連続	テスト範囲。
	夏・冬・春の長期休みは、 毎日（月～金）1時間	英語・数学の宿題。終了している場合は、他の科目の宿題。

11. 《会議》

頻度	会議名		
月1回	職員会議	支援会議	
	リフレ委員会	リスクマネジメント会議	主任・リーダー会議
年2回以上	三者連絡会議（施設、こども福祉係・保護係等の各担当者）		

①職員会議（月1回開催）

今年度も予定時刻を大幅に過ぎるということにはなかった。来年度も有意義な会議に出来る様、進め方については改善していきたい。

②支援会議（月1回開催）

入所者一人ひとりの目標（目的）を話し合い、その目標（目的）に向かって行くためには、職員は何をするべきかを考え、実行した。改善が必要な時は再度、職員間で意見を出し合い、色々な角度で、また広い視野を持つ様に心掛けた。今後も質の高い支援が行えるように会議を進めていきたい。

③リスクマネジメント会議（月1回開催）

1ヶ月分のヒヤリハット、事故報告書・相談記録・苦情報告書を議題に挙げた。会議を行うことで、職員間の相違がどこで生じたか、また今後どのように改善すべきかを話し合うことが出来た。今後もリスクの軽減を第一に考え、職員の価値観の共有化を図りたい。

④主任・リーダー会議（月1回開催）

今後の予定や人事等、施設としての方向性を施設長、主任、リーダー、サブリーダーで協議した。

⑤リフレ委員会（月1回開催）

リフレ委員長を主とし、リフレッシュ保育に関する事を協議した。昨年度より始めた祝日2人体制の人員配置等についても話し合い、予約人数を基に配置の有無を検討した。来年度もリフレッシュ保育事業を通し、地域貢献が出来る様、会議を行っていきたい。

⑥三者連絡会議（年2回以上開催）

今年度も施設と役所（福祉）の方で入所者の現況報告を行った。今後も各機関が協力し、支援に携わっていける様、内容のある会議を進めていきたい。

1 2. 《リフレッシュ保育》

① 26年度年間延べ1,291人（昨年度年間延べ1,597人）

→前年度より306人、利用人数が減少した。今年度も祝日の職員の出勤人数を1名増やし対応していたが、日曜・祝日に入所児童を預かることが多く、また預かり児童の年齢が低年齢のため、リフレッシュ保育の利用者の人数を制限したことが要因であると考えられる。また、前年度に平日固定利用していた児童（週3～4日利用）が今年度より保育園に入園したことや、12月からは家庭保育ができるようになったとのことで利用者が減ってしまったことも要因として挙げられる。引き続き、祝日の職員人数を必要に応じて1名増やし、キャンセル待ちがでない人員配置を行い、利用者を確保できるようにしていきたい。

平成26年度 月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
H26	87	92	96	119	116	111	102	118	110	124	93	123
前年比	-38	-46	-39	-3	-6	-41	-38	-17	-50	-11	-1	-16

1 3. 《リスクマネジメント報告》

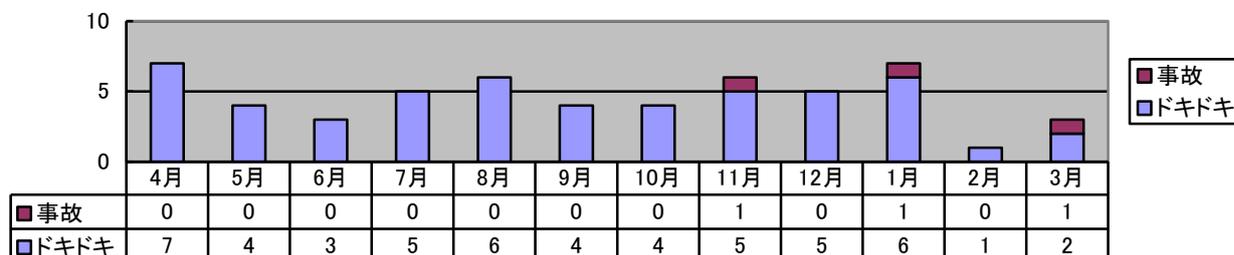
① 26年度ヒヤリハット報告件数・・・52件（学童保育は除く）

※25年度報告件数75件（学童保育は除く）

→4月が他の月に比べて多いが、月に関係なく職員による事務的ミスが多かった。

11、1月の事故は集会室でのケガ、3月は戸外へ遊びに行っている際のケガ。（リフレッシュ保育児童）

ヒヤリ報告(件数)



② 26年度ヒヤリハット以外のケガ報告件数（ケガノート） ※学童保育は除く

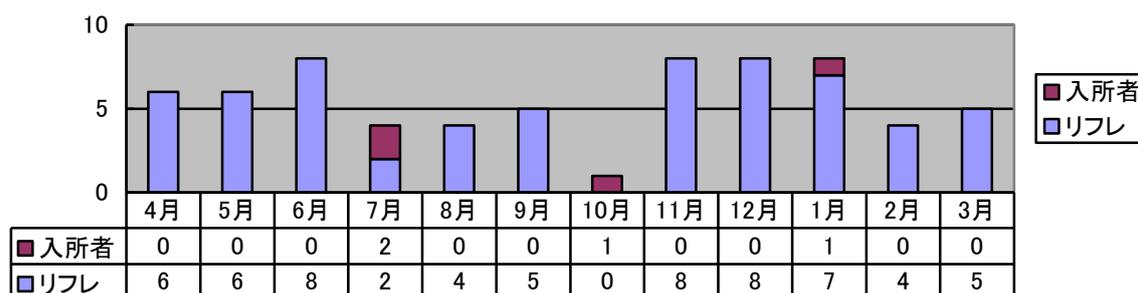
リフレ・・・63件 入所者・・・4件

※25年度報告件数（学童保育は除く）

リフレ・・・48件 入所者・・・2件

→リフレの発生数が昨年度に比べ増えたが、不慮のケガが多いため、特記事項はなし。

ケガ報告(件数)



③発生場所別件数

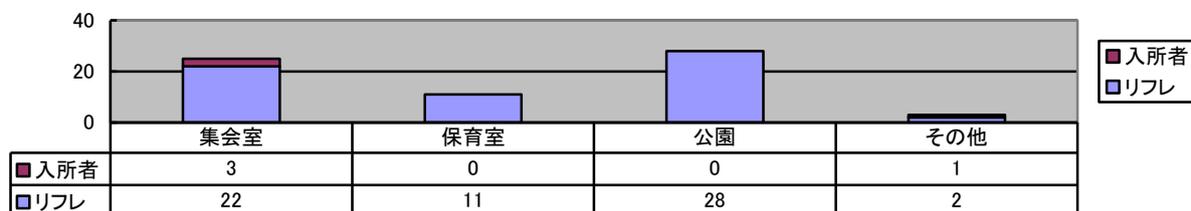
→職員による事務的ミスが多いので、事務所が多い。その他としては、郵便物のポスト入れ間違え、保育園へのお迎えに関する発生だった。

ヒヤリ報告(場所)



→リフレッシュ保育児童は昨年度に比べ、年齢の関係で集会室で過ごす児童が多く、それにもない集会室での件数も増えた。

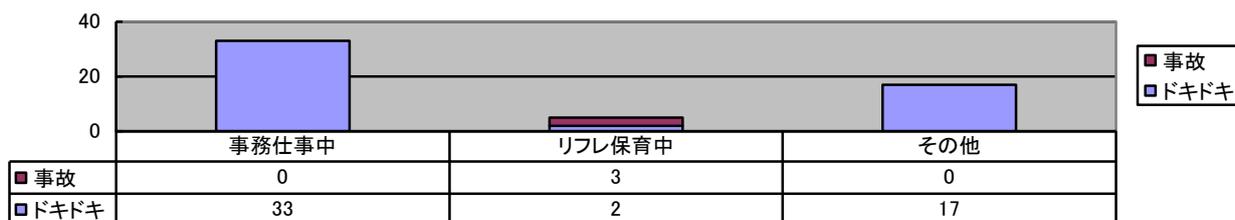
ケガ報告(場所)



④発生状況別件数

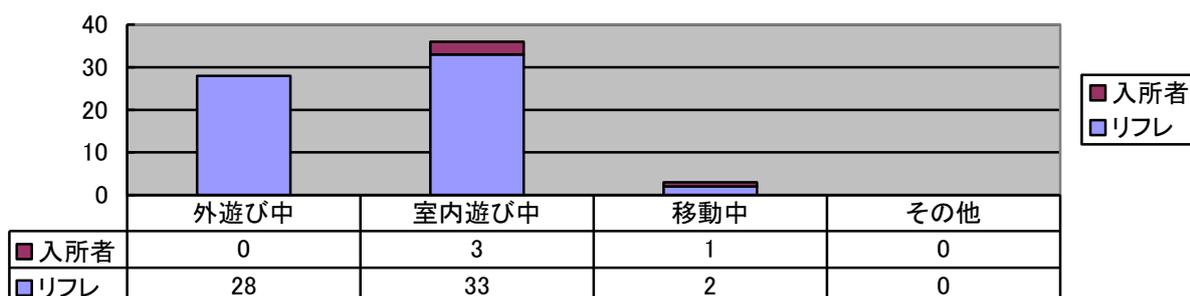
→発生場所別件数と同様、職員による事務的ミスが多いので、事務仕事中が多い。その他では、リフレッシュ保育受け入れ時等の対応や、アフターケアに関する対応においてのミスが多かった。

ヒヤリ報告(状況)



→遊んでいる時に転ぶ等、遊びの中で起こる不慮のケガが多い。

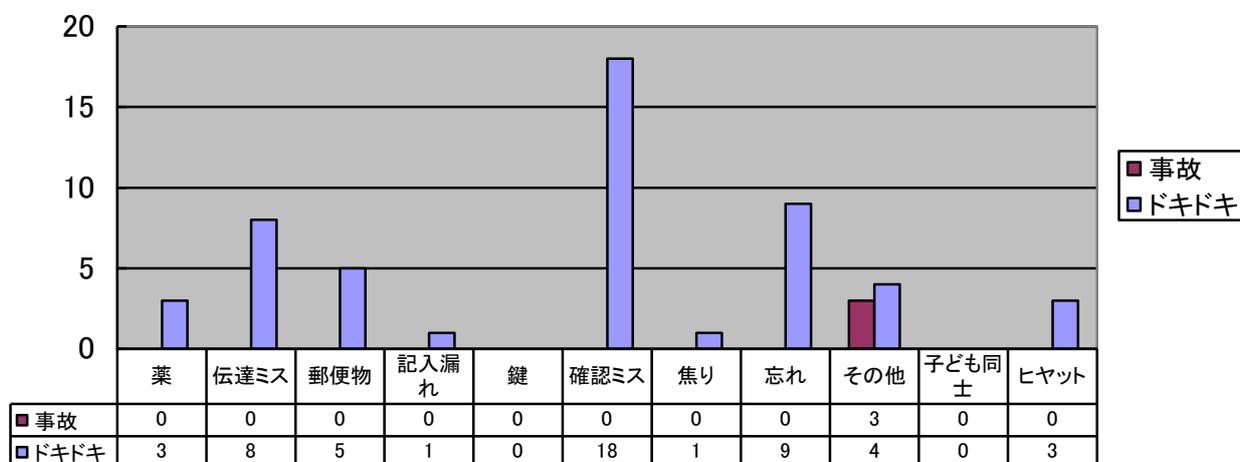
ケガ報告(状況)



⑤発生内容別件数

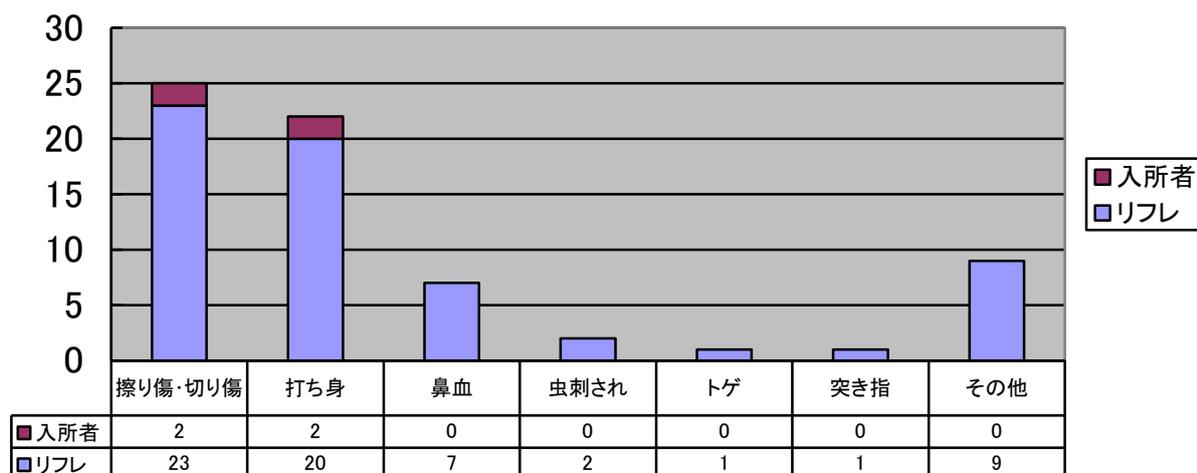
→職員による、事務的ミスの中で、昨年度と同様、確認ミスが多い。ヒヤリハットには、事前に記入漏れに気付き、リスクを未然に防げたケースがあった。

ヒヤリ報告(内容)



→転ぶ等のケガが多いので、擦り傷や打ち身が多い。

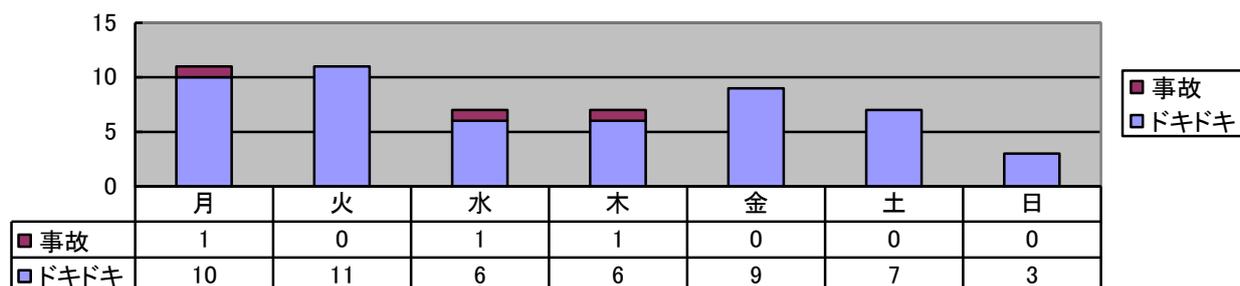
ケガ報告(内容)



⑥曜日別件数

→曜日によっての特記事項はないが、特に月曜日と火曜日が多い。

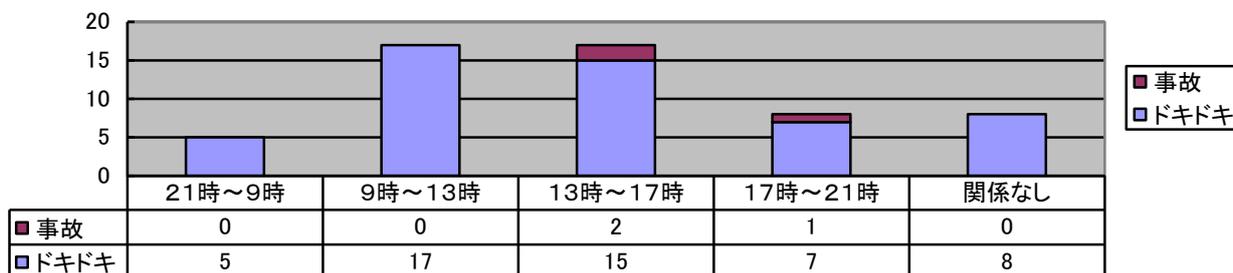
ヒヤリ報告(曜日)



⑦時間帯別件数

→職員が事務作業を行う、9～17時にかけてが多い。

ヒヤリ報告(時間)



⑧まとめ

- ヒヤリ→ヒヤリハット報告として挙げた中で、“意識不足”や“思い込み”が原因となるケースがあった。一人で考えず、思い込まず、職員間で言葉でのコミュニケーションを一人ひとりが積極的に行い、リスクの軽減に努めていきたい。
- 事故→リフレッシュ保育児童の事故が3件あり、1件は公園の遊具より飛び降り、右足の指を骨折するということがあった。事故の検証、分析を職員間で行い、職員間でリスクに対しての危機管理を共有し、同じ事故が起こらないよう対策を話し合った。今後も利用者が安心できる保育、支援を提供できる様に、リスクの軽減に努めていきたい。
- ケガ報告→未然に防ぐ事が難しい不慮のケガが多かったが、ケガをした後、すぐにきちんとした処置が出来る様、日頃より救急セットの確認をする等、リスクに対する意識を高めていきたい。

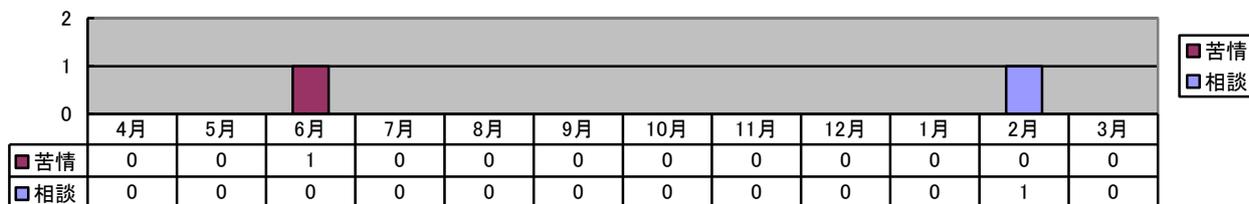
1.4. < 苦情・相談結果報告 > 苦情の定義→施設長が状況を見て、苦情か相談かを判断する。

件数…苦情1件、相談1件

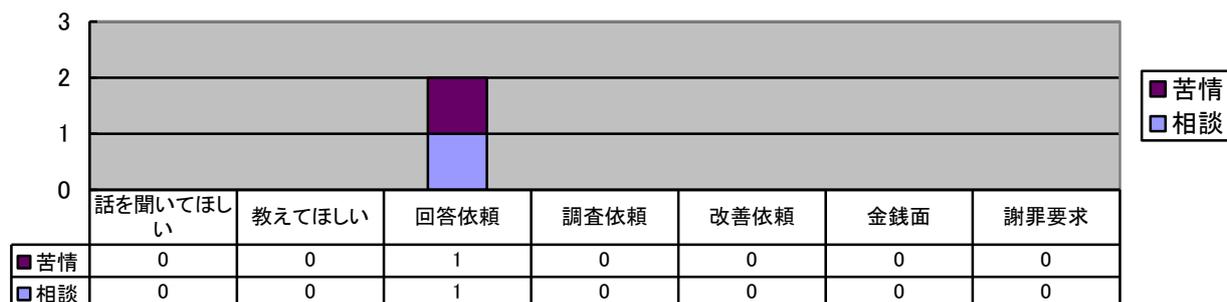
○報告件数

報告件数	平成26年度			平成25年度			
	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	2件	1件	1件		2件	2件	0件

苦情・相談報告(件数)



苦情・相談報告(要望)



○主な内容 (近隣住人、入所者)

- ・(苦情) 入所者が市営住宅の団地の敷地内に生っているビワを持って帰った。
- ・(相談) 水漏れでテーブルが使用できなくなったので、どうかしてほしい。

○まとめ

苦情と相談ともに1件ずつだった。苦情は近隣住人の方からで、施設入所者の行動に関する事だった。入所者が特定できた為、話を聴き、内容を伝え、今後は持ち帰らないように伝えた。後日、再度この件について施設の対応を聴きたいので電話をすとの事だったが、その後その方からの連絡はなかった。相談は入所者からで、水漏れによるテーブル損傷が保険適応となった為、買い替えることができた。今後も、安心して整った環境で生活出来る様、相談や苦情があった場合は、職員で話し合い、改善に努めていきたい。

15. <総括>

26年度は昨年度に引き続き、目的を明確にし、全職員が同じ目標、価値観の共有化が出来る様、会議で話し合いを行った。また入所者とも目標を決め、入所者の意向も踏まえ支援方法を考え実行した。今後も全職員が同じ目標に向かい、入所者一人ひとりにあった支援が考えられるように資質の向上を目指したい。その一つとして、今後も全職員がコーチング研修を受講し、一人ひとりの能力を上げていき、より良い支援を心掛け、入所者が“ここへ来て良かった”と思える施設作りができる様にしていきたい。